

筑波山の絶頂に登る（安積良斎）

突兀たる 奇峰 雲外に 浮かぶ

天風 吹き上る 絶巔の 秋

山河 歴々たり 双鞋の 下

但恐る 一呼 八州を 驚かさん ことを

突兀奇峰雲外浮 天風吹上絶巔秋

山河歴歴雙鞋下 但恐一呼驚八州

解説 筑波山に登頂したときの作。

語釈 ※筑波山〓茨城県つくば市北端にある山。西側の男体山と東側の女体山からなる。※絶頂〓頂上のこと。※突兀〓高いことをいう。※雲外浮〓頂上が雲の上に浮かんでいるように見える。※天風〓天上の風。※絶巔秋〓天風が絶頂にまで吹き上る秋景色という意。※歴歴〓明らかかなこと。※双鞋〓一足の草鞋わらじの意。※但〓ひたすら。※八州〓関八州。八ヶ国の総称。

通釈 高く突き出た奇峰は、その頂上を雲の上に浮かべているようである。頂上に立って見れば、天風が吹き上がって、絶頂の秋は、まことに美しい景色である。目を転じて南のほうを見れば、関東の山河が、草鞋の下にありありと展開されている。思わず、壮大な気分になって、大声で呼ぼうとしたが、関八州がびっくりするのではないかと心配になった。